

みやの森通信



発達凸凹向けフリーペーパー 第14号:2021年9月30日発行 編集長:家森 謙
Ponteとやま(みやの森カフェ) 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733
メール:miyanomori.ponte@gmail.com

Ponteとやま facebook 検索



清掃のお仕事、頑張ってます！

コロナウイルス感染拡大により、8月中旬から富山県は県独自のステージ3に、さらにまん延防止等重点措置もとられ※、私たちは様々な面で一層の制限を受け入れざるをえない状況となりました。

でも、いやだからこそ！高齢者の命を守るためにも「環境整備」は大切！！感染予防に一層気を配りながら「清掃のお仕事」頑張りました。

内部清掃チームは、9月から窓そうじにもチャレンジする予定で、先日アドバンス北陸スタッフからレクチャーを受けました。ベランダ清掃チームは、5月から「車内清掃」にもチャレンジ中です。

※富山県(富山市)に出されていた まん延防止等重点措置 は2021年9月13日、県独自のステージ3は2021年9月27日に解除されました(2021年9月30日現在)



KAORUがつぶやく



「夢」は必ずしも叶うものではないと私は思っている。

幼いころは夢見がちな子どもで、ひみつのアッコちゃんのコンパクト(買ってもらえないので手作り)に向かって毎晩願い事をしていた記憶がある。大人になるにつれ、自分の思いや意志ではどうにもこうにもならない事態に何度も出くわし、未来に期待しない方がいいと決めて目の前の課題をクリアしながら生きてきた。気づけば、これまで生きてきた月日を到底生きることにはできない年齢になった。夢を持ったことも叶えたこともないけれど、私の日々は、ドキドキとわくわくの連続。かなり楽しい。

コロナ禍でイベントが出来ず、力を持て余している タカチ動物園特別編 ～MOTH～



諸君は蛾という生き物から何を思い浮かべる？ゴジラに出てくる怪獣モスラ？シルクを作る蚕？
そういえばサカナクションが『モス』という曲を出していた...だが、ほとんどの人が蛾＝キモい
と思い描くだろう。当然の反応だ。では何故嫌いか考えたことはあるかね？

一言で表すなら『無知』だ。知識がないから恐れる。

毒がある？ごく一部だ。

色が地味？じっくり見たことはあるかね？

夜行性で陰湿？昼に活動するものもいる。

つまり『蛾を愛でる』には知識、いうなれば特別な教養が必要になる。チョウが美しいなんて誰でもいえる。

そもそも蝶は蛾から分かれたごく少数のグループに過ぎない。蛾の方が古く、種の数もはるかに多い。

月の女神アルテミスの名を冠するオオミズアオ、
世界最大の蛾ヨナクニサン、自由研究で蓑を剥がれ折り紙を
あてがわれるミノガ、幼虫がおもちゃのように鳴く
ウスタビガ、素晴らしい蛾、面白い蛾はたくさんいるが、
まずは蛾界のアイドルともいわれるオオスカシバを
紹介しよう。オオスカシバとは大きい透かしの翅という
意味だ。蛹から成虫になって最初の羽ばたきで翅の鱗粉が
全て吹き飛んでなくなってしまう。そして透明な翅になる。
その素早い羽ばたきはなんと1秒間に70回以上。この羽ばたき
で空中にホバリングしたまま花の蜜を吸うことができる。
そしてなによりこの蛾にはユーモラスな表情がある。
初めて私がオオスカシバにあったときは、何もない空中に
ボディだけが浮いていて『空飛ぶ海老フライ』に見えた。
もしオオスカシバにあってみたければ、立派な花壇で張り込み
をすれば会えるかもしれない。それでも会えない人はネットで
検索してもよいだろう。

ここまでは蛾らしくない蛾を紹介した。次はいわゆる害虫を
紹介する。とにかく痒いチャドクガ、刺されると激痛の
イラガ、県東部で大量発生中のマイマイガ、なんでも食べる
アメリカシロヒトリ、幼虫から成虫まで一貫して見た目が
気持ち悪いフクラスズメ。フクラスズメとはふっくらした雀
という意味らしいがスズメ要素は一切ない。

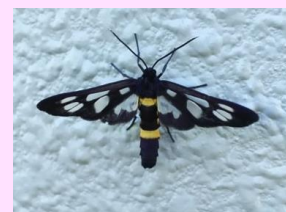
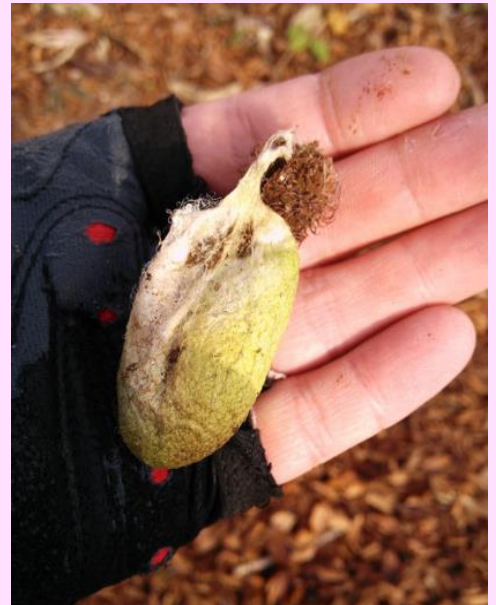
イラクサ科の植物に大量発生し、外敵が近づくと緑色の汁を
吐きながらヘッドバンキングする。成虫は大型の蛾になり、
越冬のため大量に民家に潜り込んだりする。まさに阿鼻叫喚。
こちらも是非検索してみしてほしい。

蛾の世界は奥が深い。私などまだ入り口にいるに過ぎない。
諸君らも蛾＝キモいなどと言わず、関心を持って接してみては
いかがかな？

(編集補足：スネイプ先生っぽく読んでみよう。

スネイプ先生とはハリーポッターに出てくる登場人物)

フクラにミノダ、阪急の匂い漂う話ありがとうございました。



夏休み企画『小学生のプログラミング教室』

PC・ITC関係では、私達、日頃からとてもお世話になっている頼れる存在のipt代表金山敦さんを講師に、小学生対象のプログラミング教室【Raspberry Piを組み立てて動かしてみよう】（計3回）を企画・実施しました。



どの子も、説明をきく眼差しは真剣👁️作業には集中👁️細かい部品を慎重に器用に丁寧に組み立てていきます。2回目以降は、1回目に組み立てた装置を使って、プログラムを書いてみました。色と点滅時間の入力の仕方についてレクチャーされた子どもたち…あれこれ試行錯誤を始めます。



赤と青をものすごく短い時間で点滅させたAくん。ディスプレイが紫に見えて大喜び👍人の色認識にまで話題が広がりました。ものっすごく短い時間に設定したくて、小数点以下20桁書いたBくん「あれ？思ったより長いんやけど」
そうですそうです👉数を小さくしたい時、小数点以下、やみくもに数字を書いたらかえって大きくなるんだよねえ。ちょっとした文字の打ち間違いや、プログラムを保存しないと、ディスプレイは動いてくれません。どこでミスしたかなーと見直して何度もトライする子どもたち。プログラムを書いてみるということを通して、いろんなことを学びました。

「コンピュータに興味がある子どもたちがいる」 金山 敦

何気ない会話がきっかけとなり、今回プログラミング教室を開講することになりました。とは言えゼロからのスタート。限られた機材と予算の中で、満足してもらう方法はないものか。世間では「プログラミング教育」が盛んに叫ばれているけど、読めば読むほど増える違和感。自分の思うプログラミングの面白さを感じられず、絞り出したのは、メソッド(書き方)でも、プログラミング教育(考え方)でもなく、「触って、動いて、見える」という単純な面白さを前面に出すこと。

狙いは大成功！「ボタンを押したら、画面が光る」こんな単純な動作だけど、プログラムを書き換えると、色が変わったり、点滅したり。もちろん思い通りに動かないこともあります。そんな時にも落ち着いて、プログラムのどこに間違いがあるかを真剣に探していました。

講座後には「目を輝かせていた」「集中力が切れなかった」「英語が苦手だけど、英単語を楽しそうに入力していた」などなど、嬉しい感想を頂きました。

今回、案内したのは「プログラミング」という遊び場の入口まで。いつの日か子どもたちが、この道具を使って、私たちの暮らしをより良くしてくれると信じています。



みやの森カフェの加藤さんがコミュニティFM生出演！（ラジオミュー）

去る9月20日、富山県新川地区のコミュニティFM局ラジオミューの番組「われらまちづくりタイ」にみやの森カフェの加藤さんが電話生出演しました。カフェを作った当初の話に始まり、気づいたらごちゃまぜカフェになっている現状を紹介されました。

当日のラジオパーソナリティー役:黒部まちづくり協議会 辻和夫さんから一言「老若男女集まっているみやの森カフェ。ある意味、社会の縮図なのかも。」

また、理念先行よりも、いろいろな事をしている中でスイーツ工房など結果的に何か出来てくるというスタイルの方が長続きするかもしれないと感じました」



フリスト、夏 2021



枠組や形にとらわれない新しい学びの場として2020年6月にスタートしたPonteとやま フリースタイルスクール 略して『フリスト』。夏休みは、お家にいてもヒマだなーっていう小学生や中学生、高校生にも声をかけたところ、毎回たくさん子どもたちが参加してくれました。

8月●日:この日は、午前中特養はるかぜの草刈り。暑い中、中学生も高校生も参加してくれました。カフェに戻ったら、草刈りを手伝ってくれているおじさんたちと中学生女子が 携帯の話を していて。疲れた若者は、寝ていて。学校行っている子も 行っていない子もごちゃまぜに楽しんでいます。



8月▲日:この日まずは14人分のランチ作り🍳メニューは 焼きそばとオムライスとサラダ。手際よく焼きそばを作るのはRにーさんと 中2女子。厨房の中では、これまた手際よくオムライスの卵を焼く中2女子と 高3男子。「おれ料理へた〜(笑)」「私今日は疲れてる〜」とゲームに興じたり 休憩したりしている仲間の分も張り切って作りました🍱ご飯を食べたあとは 「私は皿を洗うのが好き!」とほぼみんなの分を洗ってくれる中3女子。 寝坊してちょうど食べ頃に現れた高1男子は、お皿を拭いて片付けを積極的に。 片付けが終わったら、あつつい中バドミントンに興じる人たちと、中で PCイジる人たちそれぞれに。超個性的なみんな。不思議と個性は喧嘩せず、 うまい具合に調和しています。



年齢も性別も今おかれている状況や環境もほんとに様々な子どもたちが 時と場を共にしたフリストの夏🌞🌞寝転んでゲームをしている人も、ホントに 寝ている人も、時々声が大きい人もいるけれど、そんなことはあまり気にしていない 子ども同士。いい意味で互い(その人の背景にあるものとか置かれている 環境とか)には関心がない。基本、人として対等にかかわり合います。



フリストに来てくれている子どもたちや若者たちはみんな、学校や家庭・地域で なにかしらのあるいはちょっとした難しさ(それは本人であることも、周囲の人たちであることもあるけれど)を 抱えています。でも…ごちゃまぜでカオスなフリストでは「そんなのかんげーねえ」(古っ!)。「フリースクールって 聞いてきたんですけど(正確にはフリースタイルスクールだぞっ(笑))これは自由すぎやしませんか🐼🐼」と叫んだ 初参加の中1男子。「自由はいやなの?」と聞いたら、「いや、僕も好きなもの持ってくればよかった…」とぼそり。 2回めは、しっかりばっちり持ってきてましたよ。好きなもの、やりたいことを。

今自分はどう感じているのか。何をやりたいのか。やってみたいのか。自分の心の声を大切にする。 そしてそれを表明したり、行動したりする。誰にも邪魔されずに。もちろん、うまくいかないことも失敗もある。 でもだれにも責められない。次はどうしたらいいかちょっと立ち止まってみる。…安心してチャレンジして、 失敗してもまたチャレンジできるチャンスがある。そんなことを繰り返しながら人は「自分」がわかって「自分」に 自信がもてるようになっていく。当たり前かもしれないけど日々の生活の中で見失いがちなことにあらためて 気づかされた2021年の夏でした。そして9月。フリストには日常が戻っています。

若者おしゃべり会 富山県発達障害者等青年期支援事業

2021年8月29日 10:00-11:30 みやの森カフェ(ZOOM開催)

本来なら・・・今年度Ponteとやまが受託した発達障害者等青年期支援事業として南雲 明彦さんをゲストに、ミニ講演&対談&おしゃべり会の予定でした。が、コロナ感染拡大でリアル開催延期。ならば！ということで、若者おしゃべり会@オンライン with南雲さんを開催しました。



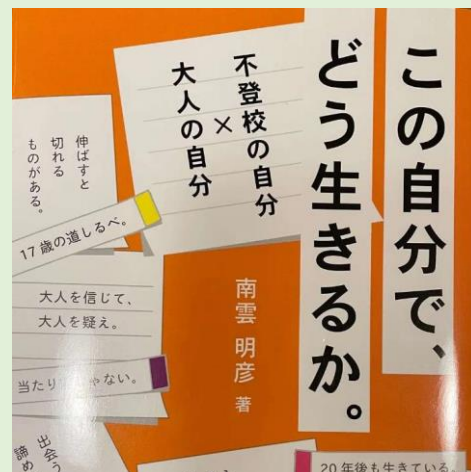
南雲 明彦さん



コロナ後の良い変化はありますか？

こんな時だからこそ、前向きな話から・・・ではないですが

- ・あまり変わってないが、イベント中止になってるのでお金が浮いた
- ・みやの森カフェに通うようになり、昼夜逆転しなくなった
- ・授業がオンラインになり、他の人と顔合わせなくて良くなり、楽
→ 楽は楽だけど、同じ部屋でずっとPCのモニター見ながら話してて、
自分は何をやっているんだろう？みたいな所も有(南雲さん)
- ・普段の健康習慣への意識が向上した(睡眠、歯磨き、シャワー等)



南雲さん新著表紙



南雲さんの話いろいろ

いろいろ話して下さった内の2つ

- ・(新著に書かれていた車いすラグビーの方について) 首から下があまり動かないが、すごく器用。実は一般の人より器用では？と思ったりする。「(車いす) 押してあげましょうか？」が逆に危なかったりする位。例えばカフェの中で人と人として関わる中で、フィルター通さず普通に関わっていきなり、余計なお世話とかが無くなっていけば良いと思う。
- ・(新著でテーマだった17歳について) 17歳って、大人になるためのキーになる年齢とは思っているが、結局、17歳の自分が何者だったのかよくわからない。自分のことがわからないんだから、他人のこともよくわからないのは当たり前。周りと比べなくていいことがこの本を書いてみてわかった。



自分軸探し

ブレないのは大事。ブレるのも大事？

- ・自分軸うんぬんで困ったり迷ったり、時には自分がわからなくなったり？
軸があるとブレずに済むので生きやすくなる？
- ・自分の考えと親の考えにギャップがあり、自分の行動に制約が設けられている
- ・ちょっと肩押してくれる安心感が欲しい

- ・(自分を知るには) 知らない人と話すのが一番では？ほかの人と話しつつ、今まで自分が何やってきたかを振り返っていれば、いつかどこかで答えが出せる。
- ・1人では解決できない。みんなで解決する(一例: まずカフェに来て、話聞いてもらう)

- ・相手との考えにギャップあるなら、自分の意見を先ず表に出す所から。そこから交渉。場合によっては第三者にも入ってもらう。反論しにくい相手の場合、反論できるような練習をするのもアリ？

こういう場を毎月のイベントにできれば、そこを目標に1か月頑張れる。自分の思いも言えるし、他の人から新しい視点も得られる。ZOOMでこういう形でやると、対面の場では話しにくい人も話しやすかったりするのかなと思ったし、こういう出会い方もあるのかなと思いました(南雲さん)



ZOOMでの開催風景

Café な日常：9月

菓子工房を今作っています。何かを作るときは、いろいろ難題が降りかかる。そのたびにいろいろな人にお世話になります。

工房をいっしょにやるチアキちゃん繋がり
沢田のおっちゃん。ボロボロになっていた工房の
網戸を直してくれました。ついでにうちの玄関の
網戸が壊れたと言ったら、

沢「小石あがっとなるからや。朝晩ちゃんと掃除せんと」

私「朝晩無理だわ」

沢「そして砂利のところは熊手で京都の庭みたいな
模様をかく」

私「もっと無理だ」

沢「なんでけ？」

私「カフェ始まったら忙しくて無理」

沢「忙しいということは儲かるな」

私「忙しくても儲からない」

沢「なんでけ？儲かるように考えんと」

私「チアキちゃんと頑張るわ」

沢「チアキちゃんは何でも人にあげっからダメや」

って、沢田さんに網戸直してもらったんだけど、
安すぎて、「この倍の値段貰って」というのに、
うんと言わない。儲からない人たちと儲け話

するのはおもしろい。みんな人のことばかり考えてる。沢田さんは小石上がらないよう
板をセットして帰っていかれました。草取りまでして。そして、チアキちゃんがお友達に
預けていた大きな作業台搬入。軽トラで颯爽とチアキちゃんが運んできた待望の作業台。
外側はチアキちゃんのお友達が磨いてくれて、青空の下、若者たちが中の清掃を頑張っ
てくれました。あと少し！待っててくれている人が居る。がんばろうね。



目 正しい事を貫くのが正しいとは限らない

▼昔、或る社内研修に参加していた時、講師役の方が急に怒り出したことがあった。「なんでAという言葉を使うんだ！社外には通用しない。Bだ！」Aという社内ローカル用語が広く使われていて、内心不満だったらしい▼社外へ情報発信するならBを使わなければいけない。こちらは相手に何かを伝えたい。ならば相手に通じない言葉を使ってはだめ。当たり前の話だ▼しかし、社内で物事を進めようとする時は話が違う。

あくまでケースバイケースだが、Aという言葉で日常的にやりとりが進み、Aしか知らない従業員だっているかもしれない社内へ何かを伝えたい場合、Aを使う方がコミュニケーションエラーは少ない。世間一般に使われている用語を使うという正しい事を貫いたら、相手によってはコミュニケーションエラーを起こすリスクを増してしまう時もある。正しい事を貫くのが正しいとは限らないー例だ

▼そもそも言葉には方言が沢山ある。CではなくDの方が伝わり易い地域／相手ならD。Eが伝わり易い地域／相手ならE。伝えたい事が相手へしっかり伝わる事こそ重要。物事の本質を見誤るのは良くない▼ら抜き言葉一つ取っても、広まってきている一方、アンチら抜きも根強いという話がある。「れる」が広まっても「られる」を軽んじてはいけない。それは「られる」で生きてきた人の価値観／人生を尊重し、その人の心に寄り添う事だから

